大台ケ原　～　大杉谷

山行日：　10 月 13 日（夜）～　10 月 16 日

行　程：

13 日：バスタ新宿 23:15　夜行バス

14 日：八木 7:00＝電車乗継ぎ大和上市 8：18／9:00 バス＝大台ケ原 10：44 講習会 11:00
－西大台周遊 11:30－七ツ池 13:00－開拓跡 13:45－展望台 14:30－大台ヶ原 16:20－湯治館（泊）

15 日：湯治館 8:15－シオカラ谷 8:45－大蛇嵓 10:00－尾鷹辻 10:55－日出ケ岳 12:15/12:30
－堂倉滝 15:35－光滝 16:30－桃の木山の家 18:50

16 日：桃の木山の家 6:40－平等グラ 7:30－シシ渕 8:15－千尋滝 9:20－宮川第三発電所 11:30
－登山口 12:10 バス発－三瀬谷 14:21(特急南紀ひかり乗継)―松戸 18:50

大台ヶ原～日出ヶ岳

昨年行く予定が私事で行けなくなり今回は絶対行きたいと思ってました。奄美大島に次いで年間雨量の多い地域です。今回はまずまずの天候ですが分かりません前日バスタ新宿から夜行バスで奈良の八木に、八木からは電車乗継、大和上市からバスで大台ヶ原に行きます。交通の便が複雑です。今日は西大台を歩きます。西大台は利用調整地区なので事前のレクチャーが必要です。11:00 から 30 分受けようやく西大台周遊です。入口のマットで靴の泥を綺麗に洗い出発！！開拓分岐まで 270m 位下ります。ヒノキ、ミズナラ、トウヒ樹林の中にヒメシャラの赤褐色の光沢ある幹、広葉樹の紅葉、

多雨地帯のため足元には何十種類のコケ群生、やさしい風景です。展望所まで足を延ばし本来なら大蛇嵓が見えるはず？？？今回は見えませんでした。明日はそこに行く予定です。これから 270m 登り西大台を堪能しながら帰ります。5 時間程度の山行で自然を楽しみました。今日は湯治館で泊まります。宿泊客は少なくゆっくりできました。夕食には猪の肉も美味しかったです。明日は 6 時朝食で東大台地区の大蛇嵓、日出ケ岳を経て大杉谷へと向かいます。

10 月 15 日：5 時頃目が覚めた時ザーザーと雨の音。窓を開けてみると大雨！！皆に声を掛け今日の天気を調べます。時間とともに回復しそうです。出発を少し遅くすることにしました。8 時過ぎに出発、雨もほとんど降ってません。良かったとその時は思いましたが。。。。シオカラ谷まで降り今度は大蛇嵓まで登りです。大蛇嵓は荷物を置きピストンの予定です。先に行かれた方は雲で景色はみえなかったよう、私達は？

着いた岩場は雨に濡れてて滑りそう周りに着いてる鎖を使い恐る恐る先端へ。スッキリとはいきませんが谷底、周りの崖、山々も見えます。スリル満点の大蛇嵜行けて良かったです。さあ日出ケ岳目指して進みます。昨年はシロヤシオのトンネルだったようで秋はその葉の紅葉が綺麗でした。山頂近くになると伊勢湾台風で針葉樹が大量に倒されたためコケが衰退してミヤコザサの山となってしまいました。12 時過ぎ日出ケ岳に着きました。これからは大杉谷です。

日出ヶ岳から大杉谷へ

大台ヶ原の最高峰で百名山の日出ヶ岳[1698m]にて腹ごしらえをして 12:30 出発。シャクナゲの花が咲く頃は綺麗であろう登山道を下る。粟谷小屋を経て林道から再び登山道に入ると転がり落ちそうな急坂が続き大杉谷に下る。待ち受けていたのは堂倉滝だ。落差は２０m程であるが幅が広く大きな深いエメラルドグリーンの滝壺に怒濤の如く豊富な水が流れ落ちており、久し振りに滝らしい滝を目にして暫し足を止めることに。

ここには支流の不動谷のダムを経て下流の第三発電所の取水口があり本流の水量が少なくなる。これより沢沿いの道となるが深い渓谷が続き所々にエメラッルドブルーの澄み切った淀みが現れ、足を止めてしまう。二本筋の与八郎滝、滝壺をもたない光滝を過ぎ１０年間も通行止めになった崖崩れが現れた。手前で河原に降りたのが間違いで沢を埋め尽くす大岩に阻まれて引き返す。道は中複の大小の岩の中で、赤ペンキを頼りに無事通過する。辺りが暗くなりかけヘッドランプを点灯する。七ツ釜滝はいつの間にか通過していた。桃の木山の家の到着は６時過ぎで日が短いこの頃は辺りは暗闇で小屋の灯りが眩しい。すぐに檜風呂で一風呂浴び、無事に小屋に着けたことに乾杯して夕食。小屋は綺麗で親切丁寧だが消灯が２０時と早い。明日の準備を済ませると、もう８時近くになりスマホをいじっていると突然暗闇になり消灯だ。10 月 16 日：６時の朝食後すぐに小屋を出る。小屋前の吊り橋を渡るのは北ア黒部川薬師沢出合小屋前の吊り橋に似ている。昨日同様に鎖場の連続で慎重に進む、今日の見所であるシシ渕は両岸が迫りその奥にニコニコ滝の一筋の流れを堪能することが出来る。最後の千尋滝は下部は樹林で隠れて上部のみしかみることができないが相当の落差があるようだ。岸壁をくりぬいた歩道で頭をぶつけないように通過する。やがて堂倉滝で引き込んだ水で発電している宮川第三発電所が見えて登山口に着くことができた。沢筋の歩道は登り下りの連続で水平な歩き易い道は少なく水平距離を稼げない。しかし多くの名瀑を見ながら、又何本ものスリルある吊り橋を渡っての道程は楽しい。再度訪れたいと思う。我々専用となった送迎用のバスで大台道の駅へ、近くで飲み物を調達して無人の三瀬谷駅で特急南紀に乗車、無事帰還できたことを祝って乾杯、名古屋で新幹線に乗り換え帰路に

着く。今回のコースは奈良県側も三重県側も公共交通の便が悪い、バスの本数が１日に２本しかなく乗り遅れると大変なことになる。そんな中での乗物や宿の手配など山行計画をたてていただいたリーダーの吉田さんありがとうございます。